

## 令和8年度第1回苫小牧市環境審議会（会議要旨）

日時：令和8年5月26日（火）14:00～15:46

会場：市役所91・92会議室

出席委員：12名

事務局：清野部長、櫻井部次長、名越課長、斎藤課長補佐、山本課長補佐、石川主査、伊藤主査、田村技師、池田主事、登坂主事、新山主事（11名）

要旨：以下のとおり

（開会）

（委嘱状交付）

（副会長の選出）

副会長：苫小牧工業高等専門学校 金子 友海委員

（諮問）

苫小牧市環境基本計画～ゼロカーボン推進計画～改定について

（町田副市長挨拶）

（議題）

**苫小牧市環境基本計画～ゼロカーボン推進計画～改定に係る部会の設置について**

（質疑応答）

〈植竹会長〉

基本目標3番のところ、リサイクル率が近年かなり上昇してきているが、上昇率が横ばいになっている理由は何か。

〈名越課長〉

低い数字については、本市はまずプラスチックの回収を始めた。その後、紙の回収を資源化したことで、リサイクル率が年々上がっていった。加えて、家庭ごみの有料化が始まり、資源物とごみの分別は年々明確となり、リサイクル率が上昇してきていた。ただ現在は横ばいの状況が続いている。理理由としては資源物としてリサイクルできるごみの分別がこれ以上進んでいないことが主となっている。

**【会議終了後の補足】**

平成22年4月のプラスチック資源回収、そして平成25年7月のごみ袋有料化と紙資源回収の開始により、市民の皆様の分別が進み、リサイクル率は大きく上昇しました。

一方で、現在は現在の仕組みで資源化できるごみをほぼ出し切っており、これ以上の劇的な上積み難しい状況

にあります。

また、現在は「3きり運動」によって生ごみの軽量化（水きり等）を進めておりますが、家庭で堆肥化された生ごみ等についても、計算上は分母となる「ごみ総重量」に含まれてしまいます。このように、市民の皆様の減量の努力が、重量ベースで算出されるリサイクル率の数値に反映されにくい統計上の仕組みも、現在の横ばい傾向の理由となっております。

〈和歌月委員〉

太陽光パネル、太陽光発電施設設備の導入を大きく挙げているが、設置したものが20年、30年経ったときの対応策であったり、リサイクルの検討は進めているのか。

〈石川主査〉

資料の12ページの再エネ条例の届け出の中で、事業者には撤去の計画も届け出をしてもらっている。一方で、市としても民間事業者の方で立ち上げている太陽光パネルのリサイクルの協議会にオブザーバーとして参加しており、そこで行政としてもしっかりと情報収集を進めている。

〈和歌月委員〉

資料6ページと11ページで、アルテンの近くでソーラーを建てるという計画になっているが、ソーラーを建てるとう緑地が減り、CO<sub>2</sub>吸収量が減ってしまうと思われ、この計画がどの程度地元住民の意見を聞いてもらえるのか伺いたい。

〈石川主査〉

まず森林伐採については、6ページ目の苫小牧市市有施設オフサイトPPA推進事業については右の図の赤いところの活用範囲が今回太陽光が敷かれるところとなっている。この範囲は過去に開発行為が行われている土地で今使われていない土地を活用するとなっている。

11ページのSGET 苫小牧ゼロカーボンソーラー事業については、元々市が放牧場として活用していた土地で、既に開けた土地で、一部木などはあるが、基本的には牧草地等に活用していたので、大きな伐採はないと考えている。

今後の住民との合意形成については、どちらも来月（6月）に住民説明会を開催し、地域住民のご意見を聞き、懸念点などがあるようであれば、事業者とともに解決や理解していただく等の合意形成を図っていきたいと考えている。

〈和歌月委員〉

11ページの方の範囲は事前に航空写真を確認したが、一部森林が残っていたり、流域、水辺があるので、水辺を利用する生き物を含め、貴重な植物もあるので、そういった認識もしてほしい。かつ、心配している地域の方も多いと思うので、その人達の気持ちが反映されるようにしてほしい。また住民説明会は公表されるか。

〈石川主査〉

住民説明会については、11ページのより大規模な方のSGET 苫小牧ゼロカーボンソーラー事業は、6月25日に開催すると広報とまこまいにも掲載を行った。

〈酒井委員〉

16ページの主な検討項目の5で、地域の実態を反映できる温室効果ガスの算定方法とあるが、分かれば、苫小牧の特徴みたいなものは何があるのか。

〈石川主査〉

16ページの(5)の温室効果ガスの算定方法で地域の実態については、プロポーザルを行う際の項目、提出してもらった提案書の項目となっている。本市の排出量は環境省が出している自治体排出量カルテから算出を行っている。この自治体排出量カルテは北海道で出た排出量を人口等で按分法によって、各地域に按分するものとなっている。本市は市民や企業向けに太陽光発電設備の設置の補助を行っているが排出量に反映がされない。こういった補助も反映した排出量の算定を行えないかと期待しているところで、実態をどう反映させるかは未定となっている。

〈西川委員〉

環境基本計画改定の進め方に関して、部会を設置して、部会に委員を置き、具体的な改定や数値目標を出していくということか。

〈石川主査〉

部会を設置し、その中で具体的な数値も含め、環境基本計画の改定の方向性等の議論をいただきたいと考えている。

〈西川委員〉

部会はどんなメンバーで行うのか。

〈石川主査〉

部会のメンバーについては、部会設置の承認を受けた後に、環境審議会会長から指名した委員をもって構成すると規定があり、後ほど植竹会長より指名をもらう。

〈西川委員〉

基本計画の改定は国や道のその削減目標に整合性をとり、より進めていくという基本的なことだと思う。苫小牧の特徴は港湾部を中心として、重工業系のものが非常に多く集積している。そこがどこまで頑張ってくれるかが非常に大きいと思う。部会委員が誰かということもあるが、数値目標を立てる際、それが現実的なものなのかは常に現場とコミュニケーションを取らないと絵に描いた餅になると思う。部会を設置して、その進め方もあるが、産業部門についてこの程度の数字ならばいけそうなど、どう折り合いをつけるかを部会に任せるってことなのかを伺いたい。

産業界に優しく市民に厳しい、あるいは太陽光の問題があったりすると、産業界と市民の分断が起こってしまうと心配される場所である。市も言っている通り、産業界と市民の連携は非常に重要視されていると思うが、そういうことも含めて、どのように進めていくのかについてのお尋ねしたい。

〈石川主査〉

部会の進め方の産業部門のところは市の方で立地企業で行われている脱炭素やDXの取組を丁寧にヒアリングを行い、どこまで計画の中に数値として盛り込めるのかをヒアリングした上で反映していく。

また先ほど産業界と市民との分断というようなお話があり、まさにその市民の理解がないとこのゼロカーボンの取り組みは、厳しいと考えている。そういったところも踏まえ、先ほど説明した、9ページの子供たちによるゼロカーボンの取り組みというところが市民の理解を得るために、まず次世代の人材育成も含めて、子供たちへのゼロカーボンやGXの理解というものをしっかりと進めていきたいというところで、ゼロカーボンの啓発事業にも力を入れている。

〈西川委員〉

一応関連だが、先日 CCS ゼロカーボン推進協議会の講演会ないしは総会に出席したが、こういう団体との連携やヒアリングはおこなっているか？

〈石川主査〉

CCS・ゼロカーボン推進協議会については事務局が苫小牧市の産業経済部でやっており、しっかりと連携を図りながら計画の改定を行っていく。

〈大井委員〉

太陽光発電というと広大な地域を開発して環境問題もいろいろ問題になっているが、最近フィルム型のペロブスカイト太陽光発電という新しい方法があるんですけどもその方向についても考えているか。

〈石川主査〉

次世代型のペロブスカイト太陽電池についても、将来的にはこういった技術のものを公共施設内に入れていかなければいけないというふうを考え、情報収集に努めている。

〈和歌月委員〉

先ほど市民と産業の分断が起きるのではないかという話があり、そのときの説明で資料 9 ページの市内小中学校「ゼロカーボンスクールチャレンジ宣言」の話をしていたと思う。企業もネイチャーポジティブに向けてかなり力を入れているところが多く、話をすると、やっぱり表向きの活動ではなくてちゃんと結果を出すところをやっていきたくて言っている企業が結構いる。こういった子供たちへの取り組みは、表向きにイベントをやったり、学校では先生が言って「こやりましょう」というのはいくらでもできると思う。それを受けた子供たちが、どの程度自主的にゼロカーボンや CO<sub>2</sub>の話、生物多様性の話などを自主的にできるようになっているかという「見える部分」がこれにはないというのが印象。何かそういう活動や発表会、そういう事例などがあれば教えてほしい。

〈石川主査〉

まず 1、2、3 と、出前講座、コツコツおうちでゼロカーボン、ゼロカーボンスクールチャレンジ宣言と三つあるが、これがまず令和 5 年度に市で開催した未来創造子ども会議の中で、参加した子供たちがゼロカーボンシティを目指していく上でどんな取り組みをしたらいいかというところで提案を受けたもの。その上でこのいろいろの提案を受け、この三つを実際に子供たちが自主的に取り組んでもらいたいという思いもあり、実施している。

出前講座は我々職員が全小・中学校を回らせてもらった。2 番のコツコツおうちでゼロカーボンは、夏休みと冬休みの期間中に紙のシートを配り、子供たちが実際にゼロカーボンの取り組みを 6 個ぐらい並べて記載している中から、取り組んだら丸をつける。それを夏休み明けに提出してもらってみんなの頑張りや CO<sub>2</sub> 削減量を表したもので、実際令和 6 年度の数値になるが、夏休み冬休み合わせまして大体 151t の CO<sub>2</sub> が削減された。大体 1 家庭あたりに換算すると 30 軒分ぐらいの年間削減を子供たちができたよ、ということ自分で自主的にやってもらったもの。

また、3 番のゼロカーボンスクールチャレンジ宣言についても、1 番 2 番で子供たちが学んだこと、自分たちでやったことを生かしながら学校生活の中で、自分たちがゼロカーボンの取り組みでこういうのを頑張るといもの子供たちが自分たちで考えて、それを動画でしっかり頑張ると宣言し、さらにはポスターを校内掲示して学校でみんなで取り組みましょうということ子供たちが自主的に動いてやっているもの。ということでは、やはり子供たちが結構自主的にやってくれて

いるというところは、それなりに機運醸成はできているのかなと考えている。

また、先ほど企業の話もあったが、8 ページの企業の方もやはりゼロカーボンであったり、ネイチャーポジティブというところに力を入れるということで、市の事業としてゼロカーボン企業見学ツアーというものなども実施している。実際に企業がどんなゼロカーボン取り組みをしているのかをバスツアーで見学してもらい、企業の取り組みも教えてもらいながら、そういうふうな市民の理解を得ながら行っている。

〈和歌月委員〉

表向きはすごく素敵だとは思いますが、やはり先ほどの産業と市民の分断というのが気になり、あの企業がやってます、企業がと言ってる一方で、地域の方からすると、あそこが工場になっちゃったとか、ものすごい聞く。それが市民の理解を得てないと感じる。実際にCO<sub>2</sub>を削減するから、子供たちがテストか何かで、「ソーラーパネルはいいものでしょうか悪いものでしょうか」という〇×をつけなくちゃいけないので本当は正解は〇だったが、ある子は×をつけてきた。その子は地域の自然が壊されて建てられるのが嫌だということで、テストの点数が悪くなくても×をつけてきたという事例を聞いたことがある。子供たちに産業と自然の調和の部分をごとまで理解してもらえるイベントとかを今やっているのか、今後やっていくのかな気になる。住民地域の方たちが理解できるような形で進めてもらいたい。

〈西川委員〉

苫小牧市の役割はグリーンな投資の呼び込みや、コンサル的な役割で国からのお金をいっぱい持ってくるとか、そういう役割をすべきと思うがどうか。

〈石川主査〉

おっしゃるように市の役割の一つとして、グリーン投資やそういった企業を呼び込むことはやはり非常に大きな我々の役割の一つにだと認識している。

〈西川委員〉

先ほど言った、分断というのはちょっと大げさかもしれないが、他都市や、あるいは市内での格差がクリアになってくるとまずいかなと思うがいかがか。

〈櫻井環境衛生部次長〉

都市の財政力によってできることが違うというのは、おっしゃる通りかなと思う。苫小牧市も、できるだけ市民に再エネを入れてくださいって言ってきているので、脱炭素の動きを始めた当初に、国から重点対策加速化事業という5年間で15億の補助金を獲得して、太陽光発電設備の補助だとかエコキュートへの補助を行っている。

〈植竹委員〉

生成系 AI とかそういう新しい技術は、サイエンスの部門分野でもかなり使われ、既存の数字をちゃんとサマライズするっていう能力にすごく長けている。なので既存のデータを再解析することによって、地域にはこういうことが起きているんだっていうことに新しく気が付けるチャンスと考えられるので、そういった点にも気をつけて進めてほしい。

〈石工主査〉

ご意見ありがとうございます。

(苫小牧市環境基本計画～ゼロカーボン推進計画～改定に係る部会の設置について)

---意義なし---

(部会の委員の指名について)

①苫小牧漁業協同組合 専務理事

尾本 (おもと) 委員

②苫小牧工業高等専門学校

金子 (かねこ) 委員

③苫小牧市町内会連合会

田中 (たなか) 委員

④一般公募

平沼 (ひらぬま) 委員

⑤公益財団法人 日本野鳥の会

和歌月 (わかつき) 委員

⑥北星学園大学経済学部経済学科准教授

藤井 康平 (ふじい こうへい) 様

⑦公益財団法人東京都環境公社 東京都環境科学研究所

落合 知 (おちあい さとる) 様

(部会長の選出方法について)

---異議なし---

(部会長の選出について)

部会長：苫小牧工業高等専門学校 金子 友海委員

(金子部会長挨拶)

(報告事項)

**(1) 環境測定結果の速報値について**

---質疑なし---

**【会議終了後の修正】**

報告中、北海道における苫小牧海域の水質調査結果につきまして、全ての地点にて環境基準を達成していた旨ご報告しておりましたが、こちら誤りであることが判明しました。正しくは、同海域中2地点にてCODに係る環境基準の超過が確認されておりました。本超過の要因について所管である北海道に見解を確認したところ、「当該年度において

は、水温が例年より高く、透明度も 3m 程度と悪い状況であったことから、プランクトンが増殖し、内部生産が活発になったことで、COD が上昇したものと推察される」との回答をいただきました。

当市としまして、同海域同地点における例年の COD が 1.5～2.0mg/L と基準値を満たしながらもこれに近い値で推移していたことも含め、北海道の見解同様、何某か自然的要因が重なったことで超過したものと推測しております。

## (2) 光化学オキシダントの環境基準値改正について

〈酒井委員〉

図の数字は単位が違うのか。これの平均をとって少数点になる意味が分からない

〈田村技師〉

申し訳ございません。表は ppm ではなく ppb の単位記載している。

## (3) 大気汚染常時監視測定局数の適正化について

〈酒井委員〉

双葉と市役所、一般局と自排局を統合する形になるが、新しいの一般局、自排局どっちになる。

〈伊藤主査〉

新しい方は一般局の方になる。4局というものが一般局が3局、自排局が1局の計4局を想定している。

〈酒井委員〉

国道の方は過去のデータから、別に測らなくても大丈夫ということか。

〈伊藤主査〉

自排局は自動車の排出ガスによる汚染の話題やスパイクタイヤ等は過去の出来事になっている。近年の車両は性能が向上し、なおかつハイブリッド車やEV車などの低公害車の普及により、全体的に改善している。国道の方はそのような情勢的な流れもあり、代表として幹線道路の設置による1局舎で検討している。

〈和歌月委員〉

新しい工場とかが増えてきている地域があるが、そういったところの大気汚染の懸念や検討しないのか。

〈伊藤主査〉

最近の大きな工場は規制の対象になる特定施設は協定を結び、協定書の方に各環境に配慮し、測定結果をしに報告する流れも組んでいる。大きい工場のはこのような形で連携して監視の方を行っている。

また苫東地域は、住民がいないため、本市の環境監視は市民の環境に影響が及ぼすものとしている。海側にある工業地帯は、南風が多い地形で、住宅地が北の方に接しているところで監視ができる体制を強化していこうと考えている。実際に工場がどこにできるかで監視の対象とする、しないを検討している。

〈和歌月委員〉

植苗で工場関係が増えおり、地域の方から、大気や水質等が心配という声が入っている。新しい工場や会社が建

つ際に、大気や水質等への懸念がある時は市役所に連絡すれば確認としてもらえるのか。

〈田村技師〉

基本的に工場との関係は所管が北海道になっている。ただ市にご相談いただいても、道庁にも情報提供し、できる限り確認も行う。ただ近年立地している大きな企業は基本的に立地する際に市に情報が来て、規模が大きければ、先ほどの公害防止協定を結ぶ。大きい工場であれば特にばい煙の1時間の値が常時市に送られてくる。このような形で、監視の体制は整っている。

〈芹澤委員〉

監視局舎の大きさはどれくらいか。

〈田村技師〉

測定項目の数によって局舎の大きさは変わるが、一番大きくて、こちらの柱（奥側）から真ん中の柱程度の大きさになる。測定項目が少なければその半分程度の局舎となる。

〈植竹委員〉

6個あったうちを最適化して4つにするの致し方がないことと思うが、再配置をどうすべきかのプランであったりアイデアが分かりづらかった。沼ノ端の方は住居に近すぎるという課題があるが、沼ノ端エリアは人口がかなり増加しているエリアで、市民の関心が非常に集まりやすい場所かと思う。

また市役所と双葉で、双葉の方に移るが、市役所の方が皆さんがわかる場所であり、そこでこういう値だとわかり、効果的という観点で良いと思ったが、そういうところをフレキシブルに対応することは可能か。

〈伊藤主査〉

局舎移転の候補地として考えているところの説明を追加する。留まっている自動車や、家から出ているものを対象にするのではなく、工場や事業所から出てきたものが、市民が住んでいる環境に到達して悪影響を及ぼさないかというのを監視するのが目的である。家が近すぎると固有のものを拾ってしまうという都合があり、沼ノ端公園や沼ノ端近郊は局舎を立てにくい。かつ、南風が吹いたときに、沼ノ端地区の下の工場事業者が多いエリアの北側に広く、環境が開けている赤い四角で囲っているところを検討している。

次に中央の市役所の方が分かりやすいとのことだが、ここの測定ターゲットは市役所左上の方の大きな工場であり、測りたい対象の物質が近すぎて到達しなかったり、南風が多い際に測りきれない。そのため大きな範囲で赤く、枠を取っているエリアで双葉局の移設を検討している。

(その他)

・今年度の審議会スケジュールについて

---質疑なし---

(閉会)